

千寿の郷 かわら版

介護老人保健施設 千寿の郷

足立区柳原2-33-6

TEL 03-3870-4621

FAX 03-3870-5228

2009年5月10日第120号

ホームページ⇒ <http://senjunosato.kenwa.or.jp/> ☆千寿の郷ブログ毎週更新中。

ホームページよりアクセスしてください！



千寿の郷 端午の節句



5月5日は端午の節句ということで、千寿の郷の受付には大きな鯉のぼりが飾られています。

兜や5月人形は見た目からも男の子をイメージするものですが、なぜ鯉のぼりも飾られるようになったのか疑問に思ったことはありませんか？

鯉のぼりを立てるようになったのは江戸時代からだそうです。



江戸時代、武家に男の子が生まれたら玄関の前に馬印やのぼりを立てて祝う風習がありました。

それが一般にも広まってのぼりを立てるようになり、庶民によって鯉のぼりが考案されたとのこと。

でもなぜ鯉だったのでしょうか？

中国には『鯉が竜門の滝を登ると竜となって天をかける』という伝説があります。



これが男児の成長と出世を願う『登竜門』という言葉の語源だそうですよ。

もともと鯉は、清流だけでなく、池でも沼でも生きられる強い魚であり、環境の良し悪しに関わらず、立派に成長し、立身出世するようにと願って鯉のぼりが飾られるようになったと言われています。

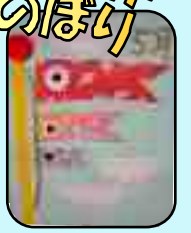
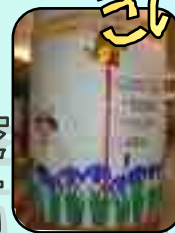
登竜門の話を“鯉のぼり”という形で空を泳がせるという発想は感性豊かな日本人ならではのですね。

急に暑くなるこの時期。

力強く青空を泳ぐ鯉のぼりのように、暑さに負けず元気に過ごしたいものですね。(作業療法士 中西)



利用者様作
こいのぼり



季節の言葉と早月

桜散り	みどりの葉っぱ	生き生きと
入所利用者	高野 良子様	
こいのぼり	天高く のぼり行く	鈴木 三郎様
通所利用		
お花見で	桜湯追加 笑みになる	大橋 家寿様
通所利用		
鯉のぼり	空は青空 よい気持ち	楠 豊子様
通所利用		
男児の節句	吹きながし 鯉のぼり	
矢車からからと		
通所利用		
秋さんま	春は鯛で 食進み	
入所利用	青山 善一郎様	
通所利用		
西岡 道子様		

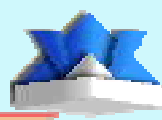
『今月の格言』

今日という一日は、明日という二日分の値打ちを持っている。

フランクリン



千寿色彩



寺崎綾 職員

入職当時、突然老健で勤務することになり、老健についてよく知らず、緊張していました。私にとって介護とは利用者様の生活にまると関わる大事な仕事だと思います。相談室は1階にあるのですが、受付、通所、地域包括支援センターがあり、あちこちが明るい挨拶で溢れています。休日は家事をしたり、買い物に行ったり、いたってフツーです。

千寿の郷は職員が明るいです。積極的にショートステイを受け入れており、地域の在宅支援施設として頑張っています。

今回は毎月第4金曜日に行われている、フラワーアレンジメントを紹介したいと思います。フラワーアレンジメントはヨーロッパが発祥で、たっぷりの花を使ってアレンジします。オアシスという吸水性のスポンジを使って、花を挿していきます。季節の花を使ってアレンジするのが特徴です。先生が厳選し、持参して下さる旬の花をそれぞれの利用者様がきれいに見えるよう一本一本丁寧に挿し、すてきなフラワーアレンジに仕上げます。「お花を生けることは、その人の心を表す」と言いますが、どれもすてきな花ばかりなので利用者様の心がきれいであることがわかります。また、花を見ると幸せを感じますし、アレンジしている利用者様は、とてもすてきな笑顔をしています。

先日、ある利用者様が受付にアレンジした花を持ってきて下さいました。その花は、受付を彩るだけでなく私達の心も和ませてくれています。

アレンジする利用者様だけでなく、それを見る私達職員にも幸せを与えてくれる「花」は、いいものですね。(デイケア 樋田)



《今月の行事予定》

- 3日(日) 落語・紙芝居
- 14日(木) かっこう
- 20日(水) あめんぼサークル
- 22日(金) フラワーアレンジメント
- 23日(土) 香雪会
- 26日(火) 居酒屋
- ★月曜日 絵手紙
- ★金曜日(第1・3) 書道
- ★木曜日 コーヒーサービス

晴耕雨読

今年のゴールデンウィークは大型連休になり、企業によっては最大で16連休になる所もあるそうです。もし私が16日間の休みを頂いたら、と考えたのですが休みが多すぎて何をしたらいいのか分からなくなりました。

休みが多い事は有り難い事なのですが、休みの価値が低くなってしまっているのではないかと思います。お休みを楽しむ事も幸せの一つですが、普段通りに働けている事に小さな幸せを感じました。
(ケアワーカー柳田)